

10月1日（土） 看護研修センター

周手術期看護の実際

というテーマで関西看護業務研究会 代表の浦 雅司先生に講義を行っていただく。

参加者は69名。

講師は手術室勤務を25年以上長く経験されており、手術室での看護師の役割を熱く語ってくれた。

まず、手術室勤務の看護師が術前訪問で、なぜバイタルサインをチェックしないのかという疑問を投げかけて、講義が始まる。

また、術中記録の記載の方法を実際に例をあげて説明をしてくれる。



(講義風景)

10月4日（火） 看護研修センター

みんなで行う感染予防対策

というテーマで有田市立病院 感染管理認定看護師の吉田 俊晴先生に講義を行っていただく。

参加者は84名で个人防护具の着脱手順の重要性を教えていただき、場面に応じた標準予防策を動画を使って説明してくれる。

また、事例を通してこの状況ではどんな予防策が必要かを考えさせてくれる。
各項目ごとにおさらいクイズで復習しながらの進行だった。

最後は施設内での感染症に関する最新情報として、結核・インフルエンザ・ノロウイルス感染症について説明してくれた。



(講義風景)

10月8日(土) 看護研修センター

マクドナルドの経営から学ぶ人材育成の成功・失敗 ～自律したスタッフの育成方法～
というテーマで(株)メンタル・パワー・サポート 代表の丸本 敏久先生に講義を行って
いただく。

参加者は119名と大変受講生の多い研修であった。

まず、一人1分ずつ知らない人と自己紹介をする。どんどん知らない人とのあいさつをして
行くが、メンバーチェンジするごとに会話がはずみ、名刺交換する人たちもいた。
コミュニケーションは質より量。量をいかにするかで距離感が縮まる。苦手な人への会話も
一言ずつ増やしていくのもコミュニケーションの方法。
今日言って明日できないのが人材育成! 少しずつ進めてください。ということから本題に
入っていく。

先生のマクドナルドでの体験を含めて、失敗・成功などを話してくれる。

最後にグループワークをして、相手を褒めるということを行う。

褒められ役の人は「こんなに褒めてもらったことがない」「褒めてもらって気持ちがいい」
などの感想を言われていた。

最後まで笑いのつきない研修で、16:00までの研修であったが、質問の順番待ちで先生が最後の質問の回答が終わったのは17:00でした。遅くまでありがとうございました。



(講義風景)



(演習風景)



(皆さん褒められていい笑顔です)

10月13・14日(木・金) 看護研修センター

(インターネット配信) 認知症高齢者の看護実践に必要な知識というテーマでリアルタイム配信研修を行い、参加者は156名であった。

診療報酬に関わる研修であったため、多くの方に参加していただく。

しかし、会場いっぱいになりご迷惑をおかけしたことをお詫びします。



(横に補助スクリーンを設置しての研修)

10月22・23日(土・日) 看護研修センター

糖尿病重症化予防(フットケア)というテーマで研修を行う。

この研修は糖尿病合併症管理料に関わる研修で、日本糖尿病療養指導士認定更新のための研修でもあるため、細かくプログラムが決まっており、時間も16時間と長い研修である。そのため、人数も30名きっかりしか参加していただけないので、お断りした方には申し訳なかった研修である。また、他府県からも参加希望が多い状況でした。

講師も和歌山県立医科大学 第一内科 准教授の古田 浩人先生、大阪大学医学部 附属病院 糖尿病外来師長の藤原 優子先生に講義、そして県内の糖尿病看護認定看護師で金本 純子先生、大川 聖子先生、山本 美子先生、小畑 香寿美先生、山崎 亨子先生に講義および演習・実習のファシリテーターをしていただく。

2日間終了して、30名全員に修了証をお渡しすることができました。

長時間の研修、お疲れ様でした。



(古田先生の講義風景)



(小畑先生の講義風景)



(大川先生の講義風景)



(金本先生の講義風景)



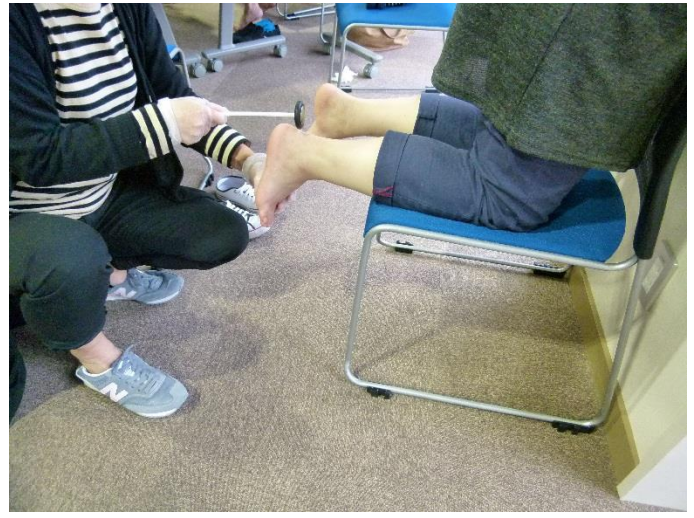
(山崎先生の講義風景)



(大川先生の講義風景)



(ファシリテーターが入ってグループワーク)



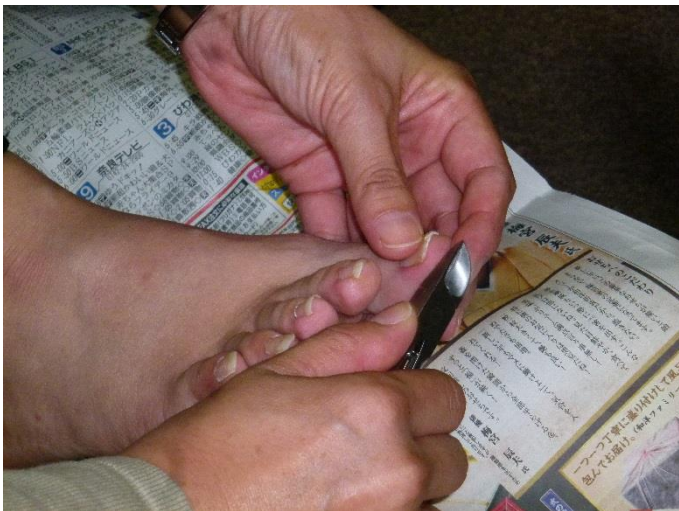
(足のアセスメント)



(グループワークの後の発表 1)



(グループワークの後の発表 2)



(爪切り)



(角質の除去)

10月26日(水) 看護研修センター

モニター心電図のファーストステップ

というテーマで和歌山県立医科大学附属病院 集中ケア認定看護師の**田村 直子**先生に講義を行っていただく。

午前の参加者は65名、午後の参加者は59名。

半日の研修で午前・午後の分かれての研修。どうしても苦手意識の高い心電図。その中でも病棟で使う頻度の高いモニター心電図についての研修だった。

まずは基本波形を覚えて、心臓の電気の伝わり方と心電図について学ぶ。そこから異常な波形を学習し、クイズ形式でこの波形は？という形で進んで行った。初めは波形がなかなか読めなかった人も最後のクイズでは「これは～の波形」と自分たちである程度答えられるようになっていた。アンケートにも少し苦手意識が薄れたという回答があった。

しかし、最後に 1 看護師の役割は不整脈の診断ではない。危険な不整脈、何かおかしい心電図を見つけたら、まずは患者のところに行って確認をする。2 不整脈を理解して、必要な対応がとれるようになることも必要と結んでくれた。



(講義風景)



(参考図書を読覧させてくれた)

10月30日(日) 看護研修センター

一般病棟で役立つ精神症状アセスメントとケア

というテーマで精神衛生研究所 副所長の**大塚 恒子**先生に講義を行っていただく。

認知症ではない人のせん妄などの精神症状の方への対応に困っている人が多いのか参加者は81名だった。

先生自身「大阪のおばちゃんです」と自己紹介されたようにテンポよく話をしてくれた。

実体験や実際の事例を通して説明してくれたので、頭に残った・分かりやすかった・苦手分野に興味を持つことができたとアンケートにも回答してくれていた。

事例を通してせん妄の症状・アセスメントと進めてくれる講義形式だった。



(講義風景)